

併設型中高一貫教育の導入に関する中間とりまとめのポイント

1 導入の背景

- ・福井県は、これまで既存の中学校・高等学校教育の充実、連携型中高一貫教育などを実施し一定の成果を上げている。
- ・一方、福井県の子どもたちが高校卒業後、大学入試において他県の子どもたちと競い合うことや、厳しい競争社会に直面することなどを考慮すると、今後は、福井県においても、併設型中高一貫教育の制度や、一人一人の個性や能力に応じた教育を早い段階から実施するという考え方を導入する必要がある。

2 導入のねらい

- ・従来の中学校・高等学校のほかに、生徒や保護者が6年間の中高一貫教育も選択できるよう学校選択の多様化を推進、生徒一人一人の能力や個性に応じた教育を実施することにより福井県全体の教育力をさらに向上する。

3 教育方針、教育方法等

(1) 教育方針

- ・6年間の見通しに立った弾力的な教育課程の適用、高校入試のないゆとりを活用した発展的・探究的な学習活動などにより、将来、本県はもとより我が国や国際社会に貢献するリーダーとなるための高い学力、豊かな人間性、たくましい心を育て、大学進学等の進路希望の実現を支援する。
- ・世の中の様々な課題、決められた答えのない課題を解決するために、自分の頭で深く考え、人々と協力して粘り強く解決策を見だし、勇気をもって果敢に行動する生徒を育成する。

(2) 教育方法

- ・ 中学校から進級する生徒と高等学校から入学する生徒の間での交流、中学1年から高校3年までの年齢の異なる生徒の間での交流を充実する。
- ・ 中高校生の時期が成長や変化の大きな時期であることを踏まえ、少人数教育や個別指導、カウンセリングなど、生徒の状況に応じたサポートを充実する。

4 入学者選抜

- ・ 適性検査、作文、面接、調査書などの複数の選抜方法を組み合わせて、6年間の中高一貫教育に対応できる学力を有した生徒を選抜するような方法を検討する。
- ・ 小学校での学習や日常の生活の中で身に付けた基礎的な力、ものごとを論理的に考える力、自分の考えを筋道立てて書いたり話したりする力、将来や社会への興味・関心などを総合的に測る出題内容、出題方法等を工夫する。

5 教育課程

- ・ 生徒の実態や進路希望に応じて、授業時間の増加や、学校独自教科の設定、高等学校の内容の一部を中学校で学ぶ先取り学習や発展的学習を行うなど、弾力的な教育課程を実施する。

6 併設中学校の規模、開校時期等

- ・ 既設の全日制普通科を主とする県立高校に県立中学校を設置する。
- ・ 小・中学生の児童生徒数や、生徒の通学の便などを総合的に考慮して、通学区は設けずに1学年当たり概ね100人程度（2学級～3学級）の規模で当面の間1校を設置することを検討すべきである。
- ・ 児童生徒や保護者、県民に対する十分な周知、具体的な教育課程の編成、教員の養成、施設・設備の整備などを考慮し、開校までに概ね2～3年は必要である。

福井県立高等学校改革検討委員会での議論について

委員会の設置

平成23年9月の「福井県教育振興計画」に掲げた、魅力ある高等学校づくりを進めるために、県立高等学校の教育改革に関わる諸課題、特に中高一貫教育の推進（併設型中高一貫教育の導入、連携型中高一貫教育の検証）について検討するため、委員会を設置

これまでの会議の概要

10月26日（金）第1回委員会

本県における併設型中高一貫教育の導入について、その必要性を議論

11月12日（月）第2回委員会

併設型中高一貫教育校における特色ある教育、入学者選抜、設置校数等について議論

11月28日（水）第3回委員会

これまでの議論を整理し、中間とりまとめ内容を議論

今後の予定

1月中旬 第4回委員会

本県における併設型中高一貫教育の導入等についての提言をまとめ、県教育委員会に報告

1月～2月

県教育委員会において、今後の併設型中高一貫教育校のあり方についての方向性を決定